

学部名	生活環境学部
学科名	情報衣環境学科
コース名	生活情報通信科学コース

生活環境学部のディプロマポリシー	生活環境学部のカリキュラムポリシー	生活環境学部のアドミッションポリシー
<p>【学部の教育理念】 奈良女子大学生活環境学部は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目指しています。教育内容は、生活の根幹である衣食住を基盤として、心身の健康・情報・文化などの多様な分野にまで及びます。学際的な教育を通じて、生活に関する専門的知見と生活の質の向上に向けた新しい発見と創造を生み出す力を持ち、個人、家庭そして社会の生活を主体的に創造できる能力を持った人材を育成します。</p>	<p>【生活環境学部のカリキュラム構造】 生活環境学部のカリキュラムは教養教育科目と専門教育科目から構成されています。教養教育科目ではグローバルな視野を培う外国語科目、健康な生活の基礎づくりとなる保健体育科目が必修となっているほか、幅広い教養と創造性を身につけるための教養科目を提供しています。専門教育科目では初年次科目として生活環境学の全体像や各学科・コースで学ぶ内容を概論的に理解するための学部共通科目と学科共通科目、専門的知見を修得するための科目として学科専門科目とコース専門科目を開講しています。各学科・コースとも生活環境学部における学修の総括として、卒業研究を通じて、自身の専門分野に関する研究を深め、成果発表することを卒業のための必修要件としています。また、大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。</p>	<p>【生活環境学部の教育理念】 生活環境学部は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材の育成をはかることを目指しています。教育内容は、身体や性にはじまって、衣食住に関わるあらゆる問題に及び、さらには地域や世界の環境問題までも射程に取っています。このような幅広い教育を提供するために、生活環境学部は文理融合型学部として、食物・養学科・住環境学科・情報衣環境学科・心身健康学科・生活文化学科の5学科から構成されています。学科の性格が多様であることに伴い、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。しかし、生活環境学の総合的教育という学部理念に即して、つねに生活者の視点を失わないことを重視しています。生活者の視点とは、利用者・消費者といった立場からの批判と改善の視点であり、わたしたちの生活の質の向上に向けた新しい発見と創造を生み出す視点です。生活環境学部は、各学科の教育目的に応じて専門性を高めるだけでなく、学科を超えた学際的な教育を通じ、領域横断的でグローバルな視野をもって問題解決をはかる人材を養成したいと考えています。</p>
<p>【身につけるべき「資質・能力」】 ・生活環境に関わる専門的知見と幅広い教養を持ち、生活を主体的に創造する能力。 ・生活の諸問題について生活者の視点より分析理解し、その解決に積極的に挑戦する能力。 ・自律的な行動と判断を行い、他者と柔軟なコミュニケーションを築き、個人、家庭そして社会の生活をリードできる能力。</p>	<p>【教育の内容と方法】 生活環境学部の教育内容は生活の根幹である衣食住を基盤として、心身の健康・情報・文化などの多様な分野にまで及びます。幅広い教育内容を反映して、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。多岐で多様な教育を通じ、専門性を高めるだけでなく、領域横断的でグローバルな視野をもって主体的に生活の問題解決をはかる人材を養成したいと考えています。</p>	<p>【生活環境学部が求める学生像】 上記の教育理念にもとづき、生活環境学部は次のような資質及び意欲をもつ学生を求めます。 (1)幅広い関心と各学科が必要とする基礎的学力をもつ。 (2)生活者の視点をもつリーダーあるいは主体的・能動的な生活者になることを目指している。 (3)日常生活に対する感受性と洞察力にすぐれ、豊かな想像力をもって他者との共生・協働をはかり、社会的弱者や文化的背景を異にする他者への共感をもつ。 (4)社会のリーダーあるいは主体的生活者となるために、課題発見能力・問題解決能力・論理的思考力の開発に積極的に取り組む意欲をもつ。 (5)各学科の教育理念に即したカリキュラムを真摯な姿勢で学び、学んだ成果を、専門職・企業人・公務員・教員等として積極的に地域や社会に還元したいという意欲をもつ。</p>
<p>情報衣環境学科のディプロマポリシー 【学位授与の前提となる教育理念】 情報衣環境学科では、衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める先導的人材と、現代の情報社会の環境を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材、及び双方の融合した先端学際領域で活躍できる人材を育成することを目的にしています。本専攻では、衣環境学コースと生活情報通信科学コースが有機的に連携して、明確な問題意識に基づいて課題を設定し、その課題に主体的・積極的に取り組む意欲が求められます。</p>	<p>情報衣環境学科のカリキュラムポリシー 【基本的なカリキュラム構造】 履修内容は、衣と情報の学際的融合領域について学ぶ共通教育科目群と、コース別の専門科目群に分かれています。専門科目群については、衣とそれを取り巻く多様な周辺諸学を学ぶための基礎知識を習得する衣環境学コースと、時代の要請する先端情報通信技術の習得を目指す生活情報通信科学コースに分かれて履修します。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。</p>	<p>情報衣環境学科のアドミッションポリシー 【教育の理念】 情報衣環境学科は、生活のレベル向上や社会的弱者を支援することのできる技術と発想力をもつ人材の育成を目指します。今日、科学技術の進歩により生活の利便性が飛躍的に向上する一方、少子高齢化や地球環境破壊が大きな社会問題となっています。より快適・健康・安全な生活環境を創り出すには、生活の実態を捉えてその問題点を明らかにし、改善のための方策を行う力を身につけた人材が必要です。そのために、生活にとって必須の技術であり今後も大きな発展の可能性をもつ情報技術と、人体と共に移動するモバイル型の典型である衣服技術を融合させた教育を行います。</p>
<p>【身につけるべき「資質・能力」】 ・各コースで指定する高度な基礎学力 ・問題発見と解決能力・解決した課題を社会に還元する能力 ・社会で貢献するためのコミュニケーション能力</p>	<p>【教育の内容と方法】 情報衣環境学科では、衣の観点から快適・健康・安全で質の高い生活環境を創り出すために必要な新しい技術開発や諸問題の研究に取り組める先導的人材と、現代の情報通信社会を構成しつつあるライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する技術を開発し社会に発信できる人材、さらに双方の融合した先端的学際領域で活躍できる人材の育成を目的にしています。従って、衣環境学コースと生活情報通信科学コースの2つのコースを設けるとともに、共通科目を設定し互いに連携しあうカリキュラムに基づいて、より良い生活環境を創り出す情報衣環境学の展開を目指します。</p>	<p>【求める学生像】 情報衣環境学科では、生活の視点から人類に役立つ技術に興味をもつ学生を求めます。衣服と情報のように一見異分野と思われるものを融合して学ぶことで、人類の生活を豊かにしようという意欲をもつ学生の入学を望みます。</p>

生活情報通信科学コースの ディプロマポリシー		生活情報通信科学コースのカリキュラムポリシー		生活情報通信科学コースの学習成果			
【学位授与の前提となる教育理念】 生活情報通信科学コースでは、ライフ・コンピューティングの観点から生活環境を改善する情報通信技術を開発し、社会に発信できる人材の育成を目的としています。明確な問題意識に基づいて生活環境の課題を設定し、広い視野でその課題解決に主体的・積極的に取り組む意欲と、先端の情報通信技術を身に付け、問題解決を先導する人材を育成します。		【基本的なカリキュラム構造】 情報衣環境学に関する共通教育科目群と、ライフ・コンピューティングの基盤となる先端的な情報通信技術の専門基礎科目とその応用を学ぶ発展科目を履修します。専門科目群は、最先端の情報通信技術とその応用技術、社会的側面を含む幅広い内容の科目で構成されています。		(◎=学習成果を上げるために履修することが特に強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)			
【身につけるべき「資質・能力」】 ・最先端のライフ・コンピューティングに関する幅広い知識 ・生活環境における様々な問題を情報通信技術により解決する問題解決能力 ・主体的に課題を捉え、計画的に実行し、課題解決を先導できる能力 ・専門知識により社会で貢献するためのコミュニケーション能力		【教育の内容と方法】 生活情報通信科学コースでは、情報通信技術の枠を超え、ライフ・コンピューティングの観点から生活環境の改善を先導する人材を養成します。複数言語のプログラミング、情報理論、ソフトウェア工学、人工知能、経営工学、プロジェクト管理など幅広い科目内容と、国家試験である情報処理技術者試験の取得を目指す実践的な学習内容となっています。科学的探究心、論理的思考力、計画的実行力、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を実践的なプロジェクトチームによる学習や先端的な情報通信技術の科目を通じて学びます。		教養	専門性	創造性	
				グローバルな視野を培い、幅広い教養と創造性を身につける	専門的で科学的な思考ができ、物の本質を考察できる能力	情報分野の基礎およびコンピュータの構成とそのうえで動作するアプリケーションに関する知識、システム設計開発のための手順を身に付ける	ライフ・コンピューティングに関する社会的背景と諸問題に取り組み、これを改善できる能力を身につける
カリキュラム							
科目番号	授業科目名	学習目標	対象学生	開講期			
	教養科目群：大学生生活入門・パサージュ	・高校までの学習とは異なる、大学ならではの学びとはどのようなものか理解する。 ・奈良女子大学の教員が行っている研究の最先端に触れ、学問の世界を体験する。	1回生以上	前期	○		
	教養科目群：人間と文化	人間と文化に関する幅広い知識を体系的に理解する。 柔軟かつ論理的に思考する力を身に付ける。 自ら課題を発見する力を身に付ける。	1回生以上	前期・後期	△		
	教養科目群：生活と社会	生活と社会に関する幅広い知識を体系的に理解する。 柔軟かつ論理的に思考する力を身に付ける。 自ら課題を発見する力を身に付ける。	1回生以上	前期・後期	△		
	教養科目群：人間と自然	人間と自然に関する幅広い知識を体系的に理解する。 柔軟かつ論理的に思考する力を身に付ける。 自ら課題を発見する力を身に付ける。	1回生以上	前期・後期	△		
	教養科目群：グローバル教育科目	異なる文化や価値観に触れ、国際性の涵養と外国人とのコミュニケーションをとる力を身に付ける。	1回生以上	前期・後期	△		
	現代社会と職業	キャリア教育全体の基礎となる科目。働きつつ生きることの意味や、その舞台としての現代社会の仕組みを理解する。	1回生以上	前期	△		
	外国語科目	ボーダーレス化、多極化する世界の中で、様々な情報源から現在を読み取り、そこでの自分の位置と進路を見定める力を身に付ける。 言語を通じて異文化への理解を深め、コミュニケーション能力を向上させる。	1回生以上	前期・後期	◎		
	健康運動実習	・運動・スポーツの実践が健康の維持・増進に与える効用について理解する。 ・体力測定や各種調査の自己分析を通じて自らの身体への理解を深める。 ・仲間とのコミュニケーションをはかり、主体的に運動・スポーツにかかわる態度を身につける。	1回生以上	前期・後期	○		

	情報処理入門	・情報倫理と情報セキュリティの考え方を身につける ・様々な情報システムを安全かつ有効に使う方法を理解する	1回生以上	前期	△			
3100001A1	生活環境学原論	・生活環境学とは何か、学問体系とその内容について理解する ・生活を取巻く自然・社会環境問題を把握する ・生きる哲学と生活科学について考える	1回生以上	後期	◎			
	児童学		2回生以上	後期	△			
3100004A1	家庭機械・家庭電気・情報処理	◎生活機器の作動原理、構造等を理解し、安全に利用できる(知識・理解、汎用的技能)。 ◎電気機器に必要な電気の基礎、構造、作用等を理解し、安全に利用できる(知識・理解、汎用的技能)。 ◎コンピュータの基本原理解、安全に利用できる(知識・理解、汎用的技能)。 以上の学習を通して、機器に使われるのではなく、機器を活用する能力・態度を身につける(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性)。	1回生以上	後期	△			
3100020A1	ジェンダー文化論	①ジェンダーのことが意味するものを知る。 ②ジェンダーの視点から社会的な事象を見ることができるようになる。 ③ジェンダー以外にも、年齢、学歴、民族、宗教など、人を分類する基準は複数あることを知る。 ④リプロダクションには国家の利害や権力関係が明瞭に表れることを知る ⑤ジェンダーやセクシュアリティは、文化によって多様であることを知る。	1回生以上 (生活文化学科以外)	前期	△			
3230001A1	情報衣環境学概論	以下の内容を学ぶことで、被服科学と情報科学が融合した新しい分野に挑戦するための、広い視野と高い専門性を身につける。 ・ライフコンピューティングに関する基本的な知識を習得する。 ・ハードウェアの基礎を理解する。 ・プロジェクトマネジメントの概要を理解する。 ・ウェアラブルインタフェースの基礎を理解する。 ・衣環境に関するバーチャルリアリティの基礎を理解する。	1回生以上	前期	◎			
3230002A1	応用数学Ⅰ (微分積分学)	1. 極限の考え方を理解する(知識・理解)。 2. 連続関数の考え方を理解する(知識・理解)。 3. 微分の考え方を理解する(知識・理解)。 4. 積分の考え方を理解する(知識・理解)。	1回生以上	前期			○	
3230003A1	応用数学Ⅱ (線型代数)	1. 線形写像としての行列の意味を理解する(知識・理解)。 2. ベクトルと行列の演算を理解する(知識・理解)。 3. 行列式を理解する(知識・理解)。	1回生以上	前期			○	
3230004A2	形態情報論	1. 形状などの表現について理解する(知識・理解)。 2. 運動などの表現について理解する(知識・理解)。 3. 形状などが存在する空間などの特徴付けについて理解する(知識・理解)。	2回生以上	前期	△			

	図学	3次元立体を2次元平面上に厳密に表現するための平行投影の原理と応用を学ぶことを通じて、空間的・立体的な認識力と思考力を身につける。	2回生以上	前期	△			
3230006A2	マーケティング論	1) マーケティングの基本発想を理解する。 2) アパレルビジネスにおけるマーケティングの役割を理解する。 3) アパレルマーケティングにおけるビジネスモデルの新展開を学ぶ。	2回生以上	後期集中	△			
3230007A3	ウェアラブルインターフェイスデザイン論	1: ウェアラブルな情報処理の研究例について学ぶ。 2: ヒューマンインタフェースの基礎と研究例について学ぶ。 3: インタフェースデザインについて理解を深める。 4: 受講者自身も実例調査を行ってレポートを作成し発表、討論に参加するなど、インタラクティブ教育に取り組む。	3回生以上	前期		◎		◎
3230008A3	創造学	・「アイデア創出の技術」を使いこなし、自身や社会の課題に新しい選択肢を作り出すことができるようになる ・優れたアイデアを生み出すための4つのフェーズを理解する ・創造性を促進する内的／外的要因を理解し、自身や集団の創造力を引き出すことができる	3回生以上	後期集中		○		
3230009A1	生活と情報倫理	情報社会特有の犯罪事例を通じて、情報社会で生活する上で被害者や加害者にならないための方法を学ぶ。 情報社会の発展にともなう光と影について考え、情報社会で生きるための情報倫理を学ぶ。	1回生以上	前期	○			
3230010A1	情報学概論	本講義を通して、コンピュータのハードウェアならびにオペレーティングシステムの概要、デジタルコンテンツに関する理解、インターネットの基本、Webの社会的意義、インターネットアプリケーションとしてのポータルサイト、ソーシャルネットワーキングサービス、Business to Consumerの仕組みを理解することを目標とする。	1回生以上	後期	◎			
3230011A1	情報セキュリティと法務	情報セキュリティの技術とリスク対策について理解している サイバー犯罪に関する知識とその対策とその犯罪に関する法律知識を理解している コンピュータおよびネットワークのセキュリティを高めるための方法について理解している	1回生以上	後期			◎	
3230012A1	生活と統計学	・統計、確率の基本概念を理解すること。 ・統計結果を正確に読み取れるようになること。 ・データを使って自分で統計解析できるようになること。	1回生以上	後期			○	
3230013A2	情報と職業	情報システムが社会のインフラを支えており、それが私たちにどのような恩恵をもたらし、リスクを負っているかを説明できる。 情報化がビジネスや社会をどう変えてきたかを説明できる。 企業のなかで情報や情報システムがどのように活用されているのか、POSやCRMなど代表的情報システムの目的と経営的な効果について説明できる。 情報社会のなかで、どのように生きるべきかのヒントを得る。	2回生以上	前期			○	
3230014A3	経営工学	経営工学で用いられる主な手法と用語を理解する。詐欺的な商売にひっかからないだけの経済や金融に関するリテラシーを身につける。	3回生以上	前期				○

3230015A3	失敗学	失敗から学ぶことの意義を理解し、失敗学の基礎を身につける。事故事例・失敗事例を通して、技術失敗の重みを考察し、社会へ及ぼす重大な影響について分析する。致命的な失敗を想定し、それを未然に防止する手法を習得する。事故や失敗を考慮したうえで計画を立てることができるようになる。	3回生以上	後期				○
3232001A1	プログラミング言語 1	プログラミング言語Cを学び、プログラミングの基礎知識を習得すること。	1回生以上	前期				◎
3232002B1	プログラミング言語演習	C言語によるプログラミングを通して、プログラミングの技能を得ること	1回生以上	前期				◎
3232003A2	プログラミング言語 2	・ Java言語を学習し、この言語によるプログラムを作成できるようになること。 ・ Java言語を用いてオブジェクト指向によるプログラミングについて学ぶこと。 ・ Java言語によるプログラミング能力を身に付けること。	2回生以上	前期				◎
3232004A1	離散数学	数学的な考え方に習熟する	1回生以上	後期				○
3232005A1	情報処理技術 1	基本情報技術者試験の午前問題において、60点以上をとることができる。	1回生以上	前期				◎
3232006A1	情報処理技術 2	基本情報技術者試験の午後問題において60%以上を正答できる。	1回生以上	後期				○
3232007A1	データベース論	・ データベースについて理解すること。 ・ データベースシステムを構築するための基礎的な考え方を習得すること。 ・ データベースの利用に関する例題を解けるようになること。	1回生以上	後期				○
3232008B1	データベース演習	・ データベースについて理解すること。 ・ データベースシステムを設計すること。 ・ データベースおよびデータベースアプリケーションを実装できるようになること。	1回生以上	後期				○
3232009A1	アルゴリズムとデータ構造	代表的なアルゴリズムとその評価方法を理解する。さらに、自力でアルゴリズムを実装できるようになる。	1回生以上	後期				◎
3232010A2	論理回路論	・ 各種論理ゲートや加算回路・レジスタ・カウンタなど基本的な論理回路に対する理解をすること。 ・ 計算機アーキテクチャの基礎に関する理解をえること。 ・ ブール代数と論理式の簡単化について理解すること。 ・ 論理ゲートによる組み合わせ論理回路の構築について理解すること。 ・ 加算回路の原理と符号つき・符号なしの整数表現について理解すること。 ・ 順序論理回路の原理と主要なフリップフロップについて理解すること。 ・ フリップフロップによる状態遷移機械の構築について理解すること。	2回生以上	前期				◎

3232011A2	計算機アーキテクチャ論	・コンピュータの構成を把握する。 ・コンピュータの各モジュールの機能と仕組みを理解する。 ・コンピュータ設計時のトレードオフ事項について理解する。	2回生以上	後期			◎	
3232012A2	情報理論	情報量と情報通信のモデルを理解する。また誤り訂正について完全に理解する。	2回生以上	前期			◎	
3232013A2	計算機ネットワーク	・ 計算機ネットワークの仕組みを理解すること。 ・ 情報に関する基礎的な知識、リテラシーを獲得すること。 ・ 具体例に対する解決力を身に付けること。	2回生以上	後期		○		
3232014C2	計算機実験1	ソフトウェア開発の基本技術の理解を通して、プログラミング言語、シェル、OSなどに関する理解を深める。	2回生以上	前期		◎	◎	◎
3232015C2	計算機実験2	・ 情報処理技術の活用方法を学ぶ ・ 数学とコンピュータの関係を知る ・ ハードウェアの仕組みに触れる ・ アプリケーションを開発する	2回生以上	後期		◎	◎	◎
3232016A2	ソフトウェア工学概論	情報システムの開発における、 ・ 企画プロセス、開発プロセスの方法論 ・ 要求分析、要件定義の方法、開発の方法 ・ テストの実施方法 ・ プロジェクトマネジメントについて説明できる。	2回生以上	前期			○	
3232017A2	ヒューマンインターフェース概論	インタフェースの歴史や背景を理解し、 ・ 基礎的なインタラクションデザインプロセス提案 ・ 現代の情報技術を扱うためのインタフェース提案 (ユビキタス・モバイル・ウェアラブル環境等のインタフェース)を行えるようになる。	2回生以上	後期集中		○		
3232018A2	情報社会学	情報社会の根幹をなすメディアについて、ごく身近な問題群の背景を理解する(知識・理解)。 情報社会としての現代社会における諸課題の解決に向けて、取り組んでいく上での態度や必要なスキルを涵養する(汎用的技能)。	2回生以上	前期集中		○		
3232019A3	プロジェクト管理とシステム監査	プロジェクト管理の基礎知識を身に付け、品質管理、コスト管理、時間管理ができる。 情報システム監査の基礎知識を身に付け、監査の実施方法について説明できる。	3回生以上	前期				○
3232020A3	言語処理系論	正規表現やそれを用いた字句解析、再帰下降解析やLR解析の原理、それらを用いた構文解析およびコード解析などに関する理解を得ること。実際に言語処理系構築に用いられるlex, yaccなどのツールを用いて、仮想CPU上での模擬的なコンパイラを構築できる能力を得ること。以上を目標とする。	3回生以上	前期			○	
3232021A3	オペレーティングシステム論	・ OSの目的について理解すること。 ・ OSの機能について理解すること。 ・ OS機能の実装方法について理解すること。	3回生以上	前期			○	
3232022A3	パターン認識	ディープラーニングの概要を理解する。	3回生以上	前期		○		

3232023A3	マルチメディア情報工学	マルチメディア・コンテンツの諸技術を理解すること。また、その応用としてのソーシャルネットワーキングサービスについて深く理解すること。	3回生以上	前期		○		
3232024A3	数理論理学	記号論理学について基礎的理解を得ること。特に、論理式の構文と意味論、および公理体系と論理式の証明に関する理解を得ること。またそれを通じて、計算機による推論に関する基本的な理解を得ること。	3回生以上	後期			○	
3232025A2	人工知能	古典的なプロダクションシステム、現在のオントロジーベースの推論、機械学習と進化的計算について理解する。それらが現在注目されているディープラーニングにどのように関わるかを学ぶ。	2回生以上	後期		○		
3232026A3	シミュレーション科学	計算機シミュレーションに関する基礎的理解を身につけること	3回生以上	後期				○
3232027A3	グラフ理論	グラフ理論の基礎的な概念を学ぶとともに、それらを計算機の上でどのように扱えばよいのかについて理解する。	3回生以上	後期			△	
3232028A3	数理モデリング	数理モデル化の具体的な手法を複数理解する。ここでいう理解とは自分でプログラミングできる程度という意味である。	3回生以上	後期集中				○
3232029A3	数値解析	代表的な数値計算法を理解する。さらに、自力それらを実装できるようになる。	3回生以上	前期		○		
3232030A3	数式処理理論	数式処理システムを使って問題を解決する方法に付いて学ぶ。また、数式処理で使用しているアルゴリズムについての基本的な知識を得る。	3回生以上	前期			△	
3232033B2	プログラミング特別演習Ⅲ		2回生以上	前期集中			△	
3232034B2	プログラミング特別演習Ⅳ		2回生以上	後期集中			△	
3232036B3	情報処理技術特別講義Ⅱ		3回生以上	後期集中			○	
3232042F4	卒業研究Ⅱ		4回生以上 (情報衣環境学科)	後期		◎	◎	◎
3232043F4	卒業研究Ⅲ		4回生以上 (情報衣環境学科)	前期		◎	◎	◎
3232044F4	卒業研究Ⅳ		4回生以上 (情報衣環境学科)	後期		◎	◎	◎